SETSUNAN UNIVERSITY

バイオ・ライフサイエンス

キーワード：重症心身障害児、意識障害、ケア

超重度の重症心身障害児の生活を支えるケア向上のための研究方法開発とケア方法構築

看護学部　看護学科　講師
亀田　直子　KAMEDA Naoko

研究の内容

言葉やジェスチャーでの意思伝達が難しい状態にある子どもたちがいます。その状態に至った原因や年齢、発達段階は様々で、医療的ケアや身体的なケア方法は確立されてきていますが、生活の質向上や発達を促す支援はケア提供者の個人的な経験にゆだねられています。ケア提供者の経験を明らかにするために、子どもの傍らでの参加観察とグループインタビューを行った結果、ケア提供者たちは〈①身体状況と彼の微細な動き〉を見出し、熟考し、〈② 微細な動きに関するケア提供者の不確かな感覚〉に気づき、酸素飽和度モニターを隠すことなどによって〈③複数の微細な動き〉をさらに読み解こうとしていました。**〈④sharing〉とは、ケア提供者たちの不確かな感覚を含む経験・解釈などを共有し蓄積すること**であり、〈sharing〉は①～③にとって不可欠であり、『不確かな感覚』を『より確かな感覚』へ移行させる役割を持つ重要な概念であると推察されました。

ケア提供者の声やタッチ、環境音や光などの刺激への応答、彼らの微細な反応をケア提供者が捉え、その反応の意味を読み解けるかどうかは、ケアの質だけでなくケア提供者の負担感に大きく影響するため、ケア提供者の経験を蓄積することと、ケア方法開発を目指して取り組んでいます。

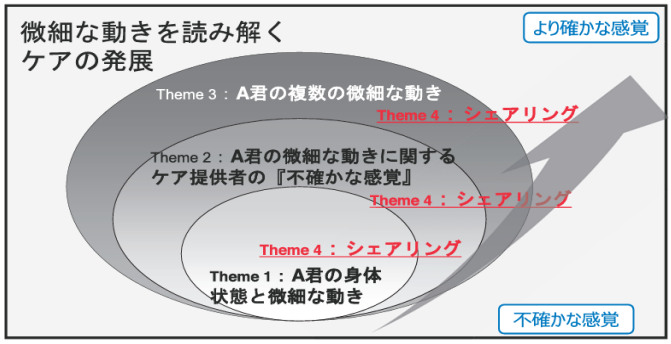

図1　重度脳損傷児A君の微細な動きを読み解こうとするケア提供者たちの生きられた経験

産学連携・社会連携へのアピールポイント

言葉やジェスチャーでの意思伝達が難しい状態にあるお子さんが身近におられるかもしれません。彼らのケア方法に悩まれている方もいらっしゃると思います。研究参加者は「こんな風に○○くんのことを話したかった。」と口々におっしゃいます。まずは『不確かな感覚』を『より確かな感覚』へ移行させる**sharing（シェアリング）**を一緒に行いませんか？お気軽にご連絡ください。

研究者総覧（亀田　直子）

URL：https://gyoseki.setsunan.ac.jp/html/100001237_ja.html

お問い合わせは摂南大学 研究支援・社会連携センターまで
TEL:072-800-1160　E-mail:SETSUNAN.Kenkyu.Shakai@josho.ac.jp